

《日尾八幡神社》

八幡神社は、日本で最も多い神社で、中心に祭られているのは、応神天皇と、その父である仲哀天皇、母である神功皇后の三人です。この日尾八幡神社も、この3人の天皇に加えて、地元の神である伊予比売命(いよひめのみこと)や、みちびきの神である猿田比古大神(さるとひこおおみかみ)など、複数の祭神が祭られています。

奈良時代、孝謙天皇の時代に、本家である大分の宇佐八幡から神霊を分けてもらい、久米八幡宮として始まりました。その後、日王山の中腹にあることから、日王八幡宮と呼ばれ、現在の日尾八幡神社に至っています。

宮司でもあった三輪田米山の記念碑や、注連石(しめいし)に書かれた「鳥舞」と「魚躍」の文字も、米山の書として有名なものです。



【拝殿】



【中央奥が本殿。
手前には、天満神社と東道後神社】



【注連石と大鳥居】



【三輪田米山の碑】



【楼門】



【生目神社】